

がん感染症疾病対策課感染症対策係
 担当 中山 長藤
 直通：092-643-3597
 内線：3066

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和6年第29週（令和6年7月15日～令和6年7月21日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- 第29週は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の1定点医療機関当たりの報告数は19.44で、前週に比べて約1.3倍に増えており、今後の動向に注意が必要です。COVID-19の症状は、風邪や季節性インフルエンザと似ています。特に高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば重症化リスクが高まります。また、いまだ不明な点が多いですが、一部、咳や倦怠感などの症状が長引く方もいます（いわゆる後遺症）。発熱等の症状がある場合は、かかりつけ医等の身近な医療機関に電話で相談してください。基本的な感染対策として、手洗いや手指消毒、換気、適切なマスクの着用、咳エチケット等が効果的です。帰省や通院、高齢者施設の訪問など、人が多い場所に行くときは、特に感染予防を心がけましょう。
- 福岡県感染症情報ホームページ(https://www.fihs.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/)では、感染症発生情報、病原体検出情報などをご覧になれます。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	4	497	248	8153
腸管出血性大腸菌感染症	3	82	107	1259
レジオネラ症	2	32	90	1066
ウイルス性肝炎	1	2	4	118
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	65	29	1034
梅毒	9	441	147	7363
百日咳	1	44	55	668

■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル

：注意報レベル

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	3849	19.44	1.30	55072	11.18
インフルエンザ	94	0.47	1.19	1648	0.33
RSウイルス感染症	588	4.90	0.89	5763	1.84
咽頭結膜熱	45	0.38	0.73	1869	0.6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 （警報レベル）	674	5.62	0.83	9435	3.01
感染性胃腸炎	413	3.44	0.78	11632	3.71
水痘	28	0.23	1.33	633	0.2
手足口病（警報レベル）	1303	10.86	0.79	41885	13.34
伝染性紅斑	27	0.23	-	289	0.09
突発性発しん	38	0.32	0.81	912	0.29
ヘルパンギーナ	321	2.68	0.94	7595	2.42
流行性耳下腺炎	2	0.02	0.25	186	0.06
急性出血性結膜炎	0	0.00	-	22	0.03
流行性角結膜炎	3	0.12	0.27	382	0.55
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	10	0.02
無菌性髄膜炎	1	0.07	-	15	0.03
マイコプラズマ肺炎	11	0.73	0.79	315	0.65
クラミジア肺炎	0	0.00	-	-	-
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0.07	-	5	0.01

※新型コロナウイルス感染症について、現在、警報・注意報の基準値は設定されていません。

■ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数が高い状況が続いています。

【感染経路】

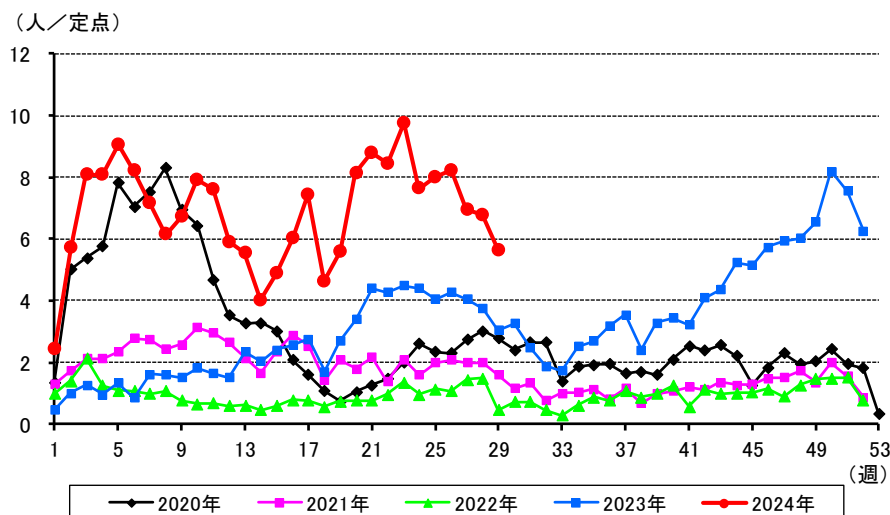
患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛まつ感染」、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」、食品を介して細菌が口に入って感染する「経口感染」があります。

【症状】

38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌等があります。熱は3日から5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。また、発症原因、病態等は不明ですが、劇症型溶血性レンサ球菌感染症を起こすこともあります。

【感染対策】

予防には、手洗いや咳エチケットが有効です。



■ 手足口病の定点あたり報告数が高い状況が続いています。

【感染経路】

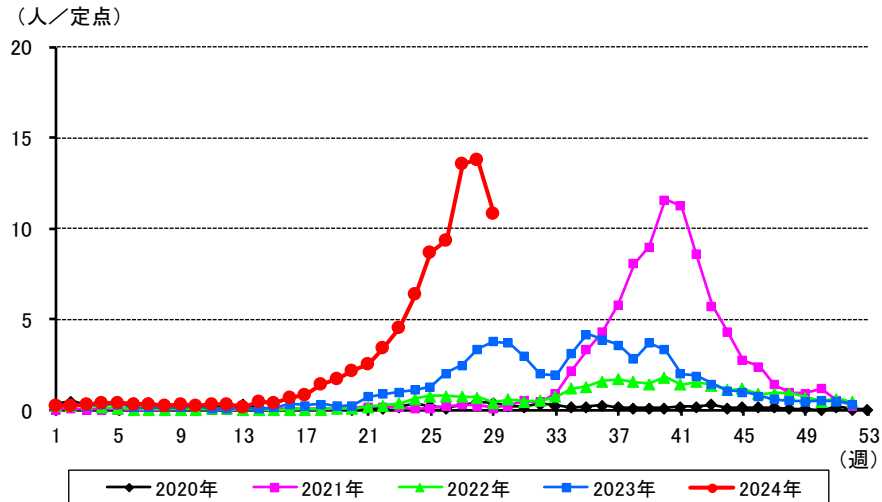
患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染する「経口感染・接触感染」があります。

【症状】

3～5日の潜伏期間の後、口の粘膜・手のひら・足の甲または裏などに水疱性の発疹が現れます。発熱は高熱になることはありません。一般的に軽症で、発疹は3～7日で消失します。重症化はまれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があげられます。

【感染対策】

予防には、手洗い、咳エチケットが有効です。発疹が消えた後も、3～4週間は便にウイルスが排泄されるため、手洗いを徹底し、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオルの共用を避けましょう。



■ **新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の定点あたり報告数が増加しています。**

【感染経路】

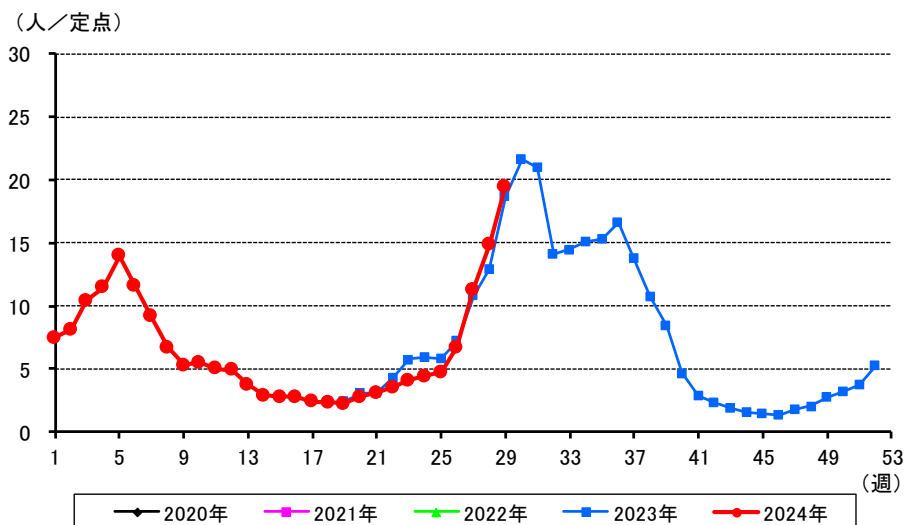
患者の咳やくしゃみ、会話等のときに排出される、ウイルスを含む飛まつ又はエアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ状態の粒子を吸い込むことによる「飛まつ感染」、患者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染する「接触感染」があります。

【症状】

発熱、呼吸器症状（咳、咽頭痛）、頭痛、倦怠感（だるさ）などがあります。また、下痢、嘔吐、嗅覚・味覚障害も起こることがあります。ほとんどの方は時間経過とともに症状が改善します。いまだ不明な点が多いですが、一部、咳や倦怠感などの症状が長引くこともあります（いわゆる後遺症）。

【感染対策】

予防には、手洗いや手指消毒、換気、適切なマスクの着用を含めた咳エチケット等が有効です。



各種感染症の拡大防止のため、基本的な感染対策を心がけ、体調を整えるようにしましょう。